

GO KO KU

県民だより 兵庫

2026

10

神戸版

兵庫県広報紙

重ねる丹波の檜皮

1㎡に600枚

出雲大社などの古社を

その技で支え続ける

日本の伝統建築の屋根を支える「檜皮の里」

飛鳥時代に広まった^{ひわだ}檜皮ぶきは、社寺の建築などに用いられる屋根
ぶき技法で、落ち着いた色合いと薄くしなやかな素材が生み出す曲線
の美しさが魅力です。ヒノキの立ち木から樹皮だけを剥ぎ、厚さ・形を
整えたものを一枚ずつ重ねて竹くぎで固定。全て熟練の技による手作
業の世界です。国内に約200人いる職人の約15%が集まる丹波市上久
下地区は、「檜皮の里」と呼ばれています。京都の宮大工に学んだ先人が

技術を伝えてきた歴史に加え、丹波地方では上質な皮が取れたこと
も要因でしょう。17人の職人を抱える(株)村上社寺工芸社では全国各地
の文化財などを手がけており、8月には淡路市の伊弉諾神宮のぶき替
えが完了。今後も、日本古来の伝統技術を次世代に継承していきます。
(株)村上社寺工芸社代表取締役 村上貢章さん

☎(株)村上社寺工芸社 ☎0795-78-0158 ☎0795-78-0708

県政情報番組
「ひょうご発信!」でも紹介
詳しくはこちら

